

# 各部で言語能力を育成

## 鹿児島聾学校

(鹿児島市)

実践校は2年目。幼稚部から高等部まで計44人(2023年1月



朝自習で新聞の感想をまとめる生徒  
＝鹿児島市の鹿児島聾学校

現在)が、新聞を使った言語能力育成へ取り組み。

22年度は、部ごとの新たな活動も始めた。幼稚部は親子で新聞が読めるよう廊下に記事を掲示。小学部は月に1回、記事を読み意見を出し合う「新聞の時間」を作った。中学部は創立120周年記念新聞を制作。高等部は、月に数回朝自習で「若い目」を読み感想をまとめている。

高校3年の新倉政亮<sup>まさあき</sup>さんは「若い目は」学生の声に勇気づけられる」と笑顔。新聞を用いた社会の授業で円安を学んだ同学年の田淵海<sup>かみ</sup>聖<sup>せい</sup>さんは「いつもの授業より詳しく知ることができた」と話す。担当の御鍵宗充<sup>みかぎ</sup>教諭(41)は「今後も生徒の実態に合わせて新聞を活用したい」と意気込んだ。(新澤杏菜)

鹿児島県内で2022年度にNIE(教育に新聞を)実践校に指定された13校が、新聞を活用した授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業の様子を紹介する。

## かごしま NIE 実践校

# 自分の意見持つ契機に

## 山田中学校

(始良市)

実践校になり3年目。記事をきっかけに自分の意見を持ち、生活



新聞が閲覧できる山田中学校のNIEコーナー

へ生かせるよう取り組む。毎週の全校朝会で生徒会NIE係が「今週のトピック」を紹介する活動や、新聞活用学習支援サイト「スクール373る」も浸透してきた。

NIE係の1年富田愛琉<sup>あいる</sup>さんは、朝会で安全保障問題を取り上げた。「新聞はいろいろな記事が載っているの、マイナンバーなどにも関心が広がった」と話す。内村加代子教諭(54)は「同級生が自分の言葉でニュースを紹介することで、他の生徒も興味を持ちやすい。そのテーマの記事を読むきっかけになる」と語る。

学期間の休みには、気になる記事の内容と自分の感想をまとめる課題を設定。その後、小グループ内で発表し合い、意見交換する活動を行っている。(江口淳司)